（様式８）

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士　　（学術　　）	氏名	SIAU JIA JIA
学位授与の要件	学位規則第４条第[1]・２項該当		

論　文　題　目

EAST ASIAN ECONOMIC INTEGRATION AND TAIWAN
-TAIWAN'S SPACE IN REGIONALISM

論文審査担当者

主　　査　中園和仁・教授
審査委員　山根達郎・准教授
審査委員　川野徳幸・教授
審査委員　篠田英朗　東京外国語大学・教授
審査委員　岩田賢司　広島大学・名誉教授

〔論文審査の要旨〕

本研究は、東アジアの経済統合(ASEAN＋3)構想において、経済力を持つ台湾をどのような形で受け入れることができるかどうかを検証するとともに、台湾の存在意義を明らかにしようとするものである。具体的には、一方で、ASEAN 諸国は増大する中国の投資を受け入れながら、他方で、域内において外交関係がなく、政治的には孤立した台湾の経済活動をどう受け入れるべきかを迫られている点を検討している。本論文の構成は、序章、第２章で、研究の目的、方法論、分析枠組み、先行研究の分析を行い、第３章で、東アジア共同体の構想の原点である EAEC 創設の動きから、チェンマイ・イニシャティブに始まる ASEAN＋３構想への動きを把握しながら、東アジアのリージョナリズムについて概観している。第４章では、統合の核としての経済的連携ついてとりあげ、ASEAN、中国、そして台湾の間の経済的相互依存関係について分析している。第５章では、中台関係、とくに中国による台湾の孤立政策を検討した。さらに第６章では、中国の ASEAN に対する影響力の増加、それに対抗して貿易協定締結の動きを強める台湾の可能性が検討されている。

結論として、台湾にとって、ASEAN は外交のための梃子にはならないが、そのスペースを獲得することは可能であることを指摘した。中国は台湾問題で ASEAN に直接影響力を行使しているにもかかわらず、台湾が民主化した地域としての正当性を有している点で、ASEAN に受け入れられている点も指摘した。また、東アジア地域の諸政府は実用主義的な統合を目標としており、相互に緊密な関係というより、各自の目標を達成するための戦術的統合を目指しており、ASEAN は台湾という得意先を拒否しないのみならず、中国からの経済的恩恵を放棄することもないことを論じている。そして、最近のシンガポールとの FTA や、日台漁業協定の締結、ニュージーランドとの経済連携協定締結の動きを、中国による台湾孤立政策に対する突破口の可能性として挙げている。質疑応答においては、前回の予備審査で指摘された問題点がどのように改善されたか質問がなされたが、報告者は、具体的に説明するとともに、審査委員の個別の質問にもそれぞれ的確に答えた。